KAISYOOOOOOO 錦2 カイショー

2023.2　No.07

TAKE FREE
ご自由にお持ちください。

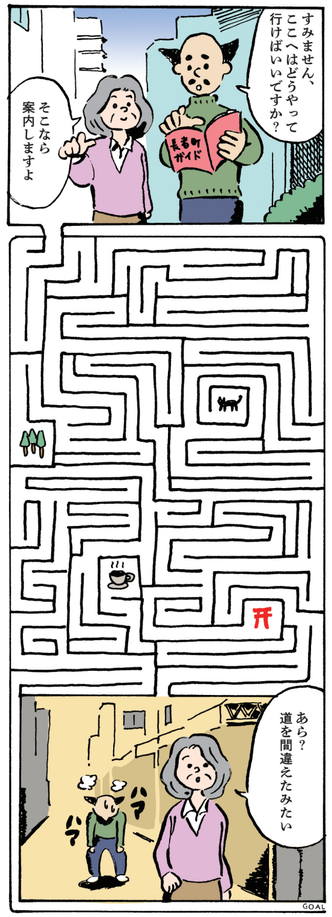
暮らしの地図

さまざまな人が関わり、日々の営みを積み重ね
ながらまちは今日も歴史を刻んでいます。
新しくこのまちに暮らしはじめたみなさんにも、古くからのお馴染みさんにも
このまちでの暮らしがより楽しく、愛着を感じるものになることを願って
錦二丁目の現在地を「暮らしの地図」という視点で見つめてみました。

噂の長者町

佐藤 ぶらお

迷子



長者町の、とある喫茶店を舞台に、そこに集まる噂話と噂話が大好きな人々を描いた日常 コメディ。

登場人物

店長
喫茶店「リュムール」の店長。自分が町の噂になっていないかいつも気にしているが、全く噂になっていない。

たき
喫茶店「リュムール」で働く噂話に敏感な大学生。マイペースで、店長をいつも振り回している。

作者

佐藤 ぶらお
埼玉在住のデザイナー / イラストレーター。大学時代を愛知で過ごしました。長者町の人達にちょっとでも楽しんでいただけるような漫画を描いていきたいです。よろしくお願いします。

https://twitter.com/burao_sato

延藤文庫紹介 No.07 「まちとともに生きる」の絵本

オススメ絵本をSNSにて紹介中！

facebook

instagram

「まち」と一概に言っても、田舎もあれば都市もある。小さいまちもあれば、大きいまちもある。「自分のまち」ってなんだろう。生まれ育った故郷？学生時代を過ごしたまち？働いている場所のこと？そうかと思えば、初めて訪れたのに一目惚れみたいに懐いてしまうまちだってある。住めば都ならぬ、恋して都。私たちは知らぬ間にその個性豊かな「まち」の虜になっている気がします。次ゆくまちがもっと好きになる。そんな三冊をご紹介します。

★ Belonging（自分らしいこと）★
作／ジョーン・ヘイガー

コンクリートと車ばかりの殺伐としたまち。そんなまちが少しのきっかけで、エネルギーあふれるまちへと変容を遂げていきます。1つの窓、1つの視点からとは思えないほど、次々と展開されていくストーリーは、読む人によって受け取り方が様々。文字がない絵本なのに、小説を読み終えたのかと感じるくらい心が満たされます。表紙から裏表紙まで隅々、視覚とこころで読み進めてみてくださいね。

★ ながいながいみち ★
訳／フランシス・パッカード　アヤクウタル・まおはるき

子どもの頃、自転車がうまく乗れるようになるとなんだか無敵になった気がしませんでしたか？それと同時に世界が広がって、ちょっとの出来事でも大冒険に感じて、今まで知らなかった自分のまちの新しい発見がたくさん見つかると嬉しくなって、またループ。また発見。でも、大人になると1回キリで全部わかった気になってしまいます。たまには破みたいにエンドレスな視点でみてみると気が付けなかった物事を発見できるかもしれません。焦らずいきましょう。人生はながいながいみちのりですから。

★ おじさんのかさ ★
作・絵／さのようこ

「かさがぬれるから」傘をささないおじさんのお話。雨ふりの日に出かけて傘をささずに過ごした景色、傘をさしたときの景色、同じように全くちがう。使わないと意味がないものなのに、大事なものって使い始めに勇気が必要な時がありますよね。でもそれって実は誰かに背中を押してほしいだけなのかもしれません。おじさんの顔を見ていると、そう感じます。

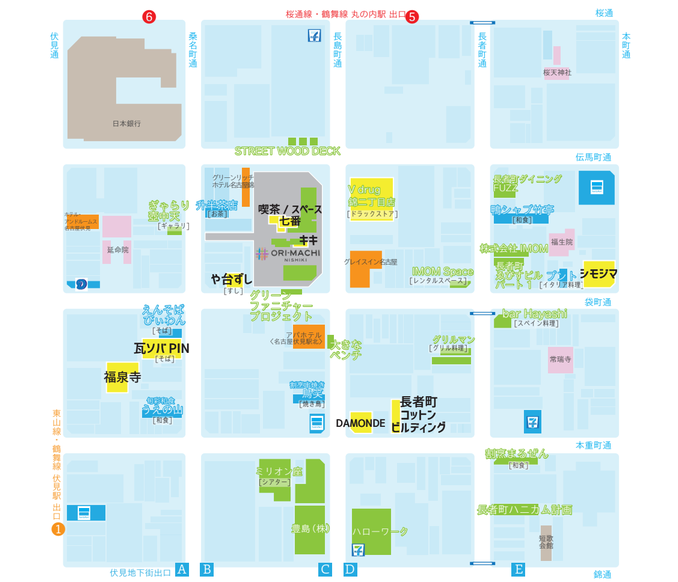
白石

錦二丁目のまちづくりに絶大な貢献をされ、全国的にも著名であった故 延藤安弘先生の（都市研究家・地域プランナー）蔵書(絵本含む)や研究資料が「延藤文庫」として、このまちに保管されています。冊数にして5万冊以上。
日本におけるすまい・まち育て研究・実践の発展のため、ライブラリー化に向けて現在基金募集中です！

基金の申し込みはコチラ

N2 MAP

No.7 掲載店舗　過去掲載店舗　会所　ホテル　店舗　公共建築



今号掲載

喫茶七番 / スペース七番	2p
このまちで子どもと過ごす1日	
名古屋市科学館 / 白川公園	3p
このまちで子どもと過ごす1日 長島町通りを南へ	
長者町コットンビルディング	3p
このまちで子どもと過ごす1日 1階ギャラリー　展示がある時のみ	
シモジマ　名古屋店	3p
このまちで子どもと過ごす1日	
や台ずし 錦二伏見町	3p
このまちで子どもと過ごす1日	
福泉寺	4-5p
インタビュー	
DAMONDE	6p
キキ	6p
瓦ソバ PIN	7p
食べて旅する	
ぎゃらり壱中天	7p
二丁目の夕日	

KAISYOOOOOOO配布協力店舗募集中！
現在配布枚数の増減もメールにてお問い合わせください

KAISYOOOOOOO　［カイショー］　No.07

発行日　2023年2月28日
企画　KAISYOOOOOO編集部
（錦二丁目エリアマネジメント株式会社 内）
編集・文　谷 亜由子、浅井梨紗、白石恭一、森田 紘圭
ディレクション・デザイン　浅井 梨紗（kapsel）
撮影　浅井 雅弘、名畑恵、白石恭一、金森菜月
印刷会社　株式会社日経西日本製作センター
発行・お問い合わせ
錦二丁目エリアマネジメント株式会社
〒460-0003　名古屋市中区錦2-13-1 宮本ビル4F
MAIL　kaisyoooooo.n2@gmail.com

次号について

まちづくり拠点「喫茶 / スペース七番」ができ、新しく街の情報を発信するツールを検討しております。あわせてカイショーもリニューアル予定で、次号のテーマは「このまちではたらく」です。楽しみにお待ちください。

編集後記：No.6の発行から少し時間が空いてしまい申し訳ありませんでした。今回は、色々な角度から「暮らし」をテーマに錦二丁目を紐解いてきました。表紙～3pにわたって編集部ファミリーに協力してもらいましたが、子どもの笑顔ってとっても癒してですよね。特にテンションMAXの飛び跳ね方が僕の推しです。街にお住まいのご家族も、そうでない方もぜひこの暮らしの地図を参考に、錦二丁目を楽しんでくださると嬉しいです。（白石）

このまちで子どもと過ごす1日

錦二丁目エリアに住んで子育てして4年目になる、
編集部家族の1日を大公開。
今の、このまちでの子どもとの暮らしをお届けします。

8:00 喫茶七番

休日の朝からお出かけスタート！
子連れでもゆったりモーニングが出来る場所が
この街にあって嬉しいな。息子たちも大好物の七番モーニング。

かぞく

パパ	カメラマンに徹する
ママ	子どもとコーヒー・PC
4歳	マイクラ・YouTube好き
10ヶ月	離乳食3回食

アイテム

ベビーカー
抱っこ紐
離乳食

朝食

パパ	Bセット／カフェラテホット
ママ	Aセット／カフェラテホット
4歳	Aセット／オレンジジュース
10ヶ月	ママのセットのバナナと離乳食

ラウンジには絵本があってその場で読めるよ！

9:30 スペース七番／ラウンジ

喫茶七番の2階には子どもが楽しめるスペースも。木のいい香りと肌触りで大人も朝食後のリラックスタイム。

喫茶の入り口の東側にあるエレベーターで2階へGO!!

トイレにはおむつ交換台も完備されているので、小さな子連れママさんも安心。

テンション MAX!!!

喫茶七番前の広場「会所」は、車を気にせず遊べる貴重な場所。おもいっきり走れるって最高！

15:30 長者町 コットンビルディング

ここは、色々なアートやデザインや表現が集まるところ。
今日は伏木 啓さんと井垣理史さんの映像インスタレーションの展示をパパとママが見たくて訪れました。
でも僕らも子どもだからって侮らないでください。
色々見て感じてるよ！

シャッターが開いていたら何か展示やイベントがやってるよ！

色々な折り紙を発見！
日々の工作あそびに使える楽しいものがいっぱいで迷っちゃう！

家に帰る前にちょっとお買い物。
シモジマさんは業務用の専門的なものが沢山だけど、子どもとの遊びで使えるものもいっぱい！

長男は、恐竜塗り絵を購入！季節のお菓子や飾りもあって、子どもとの買い物が実は楽しいシモジマさんなのでした。

16:00 シモジマ 名古屋店

17:30 や台ずし 錦二伏見町

今日の夜ご飯は、外食だ！！
パパは今日はビールとお寿司が食べたいなぁ。
ということで、や台ずし錦二伏見町さんへ。
実はここ、子どもと行くとおもちゃをいただけるサービスが！ありがたい！
お寿司も1貫から注文できるので、
幼児や小学生連れにも嬉しいお店です！

おもちゃが嬉しくて、
夜ご飯を楽しく食べてくれる❤️

ポテトを食べて、大好きなサーモンのお寿司とマグロのお寿司を食べて、ご満悦。

白川公園にすぐ繰り出せるのもポイント。
大きな遊具で体を動かそう！

久屋大通りの芝生なんかも良いね。

もちろん白川公園でも遊ぶ

じっくりみつめたり
いっぱい歩いて楽しい

企画展に合わせた
メニューが楽しめる時期も!!

11:00 名古屋市科学館

錦二丁目から徒歩圏内の名古屋市科学館は、年パス購入済み！ということで、平日でも休日でもスキマ時間に何度でも行けちゃう。電車や恐竜、音に光に水、子どもは飽きないし、大人も楽しい場所。

お昼ご飯は併設している飲食店でピークタイムを避けて11:30くらいに食べに行こう。息子の定番ご飯はハヤシライス。今度は、お弁当を持ってきて科学館の休憩スペースで食べてもいいかもね。

過去から学ぶ 錦二丁目の未来
子どもたちをみんなで守り育てるまちへ

始まりは名古屋城築城の頃にまでさかのぼる錦二丁目。
新しいものと古いものとが重なり合い、
時代ごとに表情を変えて歴史を紡いできました。
時の流れのなかでまちを見守り続ける存在と言えばお寺。
今回は喫茶七番のスタッフ"コバちゃん"こと木場友希乃が、
福泉寺の住職・余吾昌信さんを訪ねて貴重なお話を聞きました。

福泉寺の住職
余吾昌信さん

喫茶七番のスタッフ
木場友希乃（コバちゃん）

まちにたくさんの人が暮らしていた時代

木場 今日は私の知らない昔のまちのことをいろいろお聞きできるのを楽しみにしてきました。

余吾 このお寺はね、清州越しで移ってきていますから400年以上の歴史があるんですよ。江戸時代の地図を見ると、いまと同じこの場所に「福泉寺」と名前が載ってますしね。

木場 すごい。400年も前から代々まちを見続けてこられたんですね。余吾さんご自身もこのまちでお生まれになったのですか？

余吾 ここで生まれて70年とちょっとになります。もう半世紀以上も暮らしておりますが、その中でまちの大きな変化と言えば、もともと住んでいた多くの人が住居を他へ移したことと、繊維のまちとして栄えていたのが、徐々に衰退してきたことでしょうね。

木場 昔はもっとたくさんの人が暮らしていたんですか？

余吾 問屋さんや商店がたくさんあってね、みなさんそこに住んでおりました。戦後すぐは商売も厳しかったけれども、昭和30～40年代に繊維街として繁盛するようになるんです。するとみなさん裕福になって郊外に家を建ててまちから出て行ってしまったんです。都市の定めかもしれませんが、どんどんまちに人がいなくなってしまった。

木場 たくさんの人が暮らしていた頃、まちはどんな様子でしたか？

余吾 私が小学生の頃には一区画に少なくとも子どもが10人はいて、町内ごとに分団を組んで賑やかに登校するのが当たり前。どの家も家族で暮らしてて、まちにはいろいろなお店屋さんがあったんです。八百屋さん、肉屋さん、魚屋さん、漬け物屋さんと、なんでもありました。

木場 信じられない！今とは全然違いますね。

余吾 いま、学区の民生委員をやっておりますからわかりますが、子どもの数もどんどん減って学区全体で30人ほどになってしまいましたね。

お寺とまちとの関わり

木場 ご住職さんというお仕事も、お寺が職場でもあり暮らす場所でもありますね。

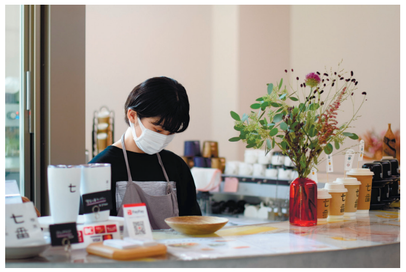
余吾 そうですね。お寺も昔は近所にもっとたくさんありましたが、引っ越していかれたりでずいぶん少なくなりましたよ。お寺といってもそれぞれ違っていて、袋町のお聖天さん（福生院）さんのように常にいろんな方がいらっしゃる信者寺もあれば、うちのような檀家さんで成り立っている檀家寺もあります。まあ、檀家さんのためのお寺の管理者みたいなものですが、それも戦後の話で、戦前はここも信者寺のような形態をとっておったんですよ。

木場 戦争がきっかけで変わったんですか？

余吾 名古屋は大空襲でほとんど焼失してしまって、うちも本堂が全部なくなりました。その後、区画整理で敷地を削られていまの広さに縮小したというわけです。お墓も他所へ移しました。戦争によって寺と地域との繋がりも大きく変わりました。

木場 昔はお寺や神社が置かれていた会所がたくさんあったそうですが、喫茶七番でも、新しくできたまちの会所として交流が生まれています。

余吾 場所ができても人と人との絆づくりというのは簡単ではありません。仕事で来る人たちと生活している人たちとが同じ思いを持つのは難しいですからね。関係性は一朝一夕で作れるものではないから大変なんです。何かを始めるのであれば、何のためにそれをやるのか、そこをしっかり考えていくことが大事だね。そういう意識を持って取り組んでいかないといけないと思いますよ。



目指したいまちの未来

木場 毎日店頭に立っていると、小さなお子さん連れのお客さんが来てくださって、そこから繋がりが生まれたりと、まちが変わってきている実感があります。そうやって少しずつ理想のまちの未来を目指していきたいです。ところで余吾さんの子ども時代にはどんな思い出がありますか？

余吾 昭和の30年代といえばものの無い時代ですが、学校が終わると子どもたちは寺の境内や校庭に集まって何かしら遊びを作り出すんですよ。今よりも車も少なく、不審者もいなかったからね。何より、大勢の人が暮らしていたのでみんなの目が行き届いて、まち全体で子どもたちを見守っていた。それで子どもたちも自由に遊べていたんです。

木場 ものが無くても豊かな時代だったんですね。

余吾 そうだね。あとはまちのお祭りも子どもの頃は大きな楽しみでした。氏神さまの那古野神社では毎年梅雨が明ける頃に夏祭りがあってね。各町内にお獅子の宿が立つんです。そこへみんな集まってお獅子をかついで「わっしょいわっしょい」と。家々を回ってお小遣いをもらって、そのまま神社まで練り歩いて。子どもたちみんなが楽しみにしていました。

木場 風情がありますね。これからの錦二丁目もそんなふうに子どもたちの思い出に残るようなまちになっていくといいなと思います。

余吾 人と人との絆を大事に。みんなで子どもを守り育てる、そういうまちを目指してください。

色は匂えど長者町カルタ

今から十二年前、
まちを思う四人の女性がまちを取材し、
さまざまなエピソードを収集。
地域に縁のある多くの人たちから
寄せられた貴重な資料や
お話をもとに作られた
カルタがあることをご存知ですか？

古くから全国屈指の繊維問屋街として
その名を知られる「長者町」を中心に栄えてきた錦二丁目。
このまちのまさに「お宝」ともいうべき歴史と文化、風俗を題材にして完成したのが『色は匂えど長者町カルタ』です。
「まちの人々の記憶と願い」をテーマに編まれた、絵札、読み札ともに48枚からなるまちの小さな物語集。一枚一枚に綴られるまちの物語に想いを馳せ、遊びを通していつしかまちへの愛着が深まる仕組み。普通のいろはカルタとは違い、遊び方も独特です。読み手が読み札の枕詞と題名を読み上げ、それに対応する絵札をいち早く取るというもの。楽しく遊びながらまちが誇る四百年の歴史と文化に触れてみませんか。

「長者町ゑびすまつり」の
『色は匂えど長者町カルタ』コーナーで遊ぶ様子

『色は匂えど長者町カルタ』は一箱1,500円。
オリマチ錦一階『喫茶七番』にて販売中です。

発行：まちの会所 hanare　http://hanare.jp/

N2 - DASHBOARD

みちにわマルシェ2022 実施報告

@michiniwa_marche

2022年10月21日(金)22日(土)の2日間、今年で3回目となる「みちにわマルシェ」を開催しました！これまでは名古屋市環境局の主催による開催でしたが、今年からは錦二丁目エリアマネジメント株式会社の自主企画ということで、3回目にしていよいよ私たちの手による地域イベントとしての新しいスタートとなりました。

今回のコンセプトは「〝舞台〟としてのみちにわへ」。住む人、働く人、まちを見守ってきた人、つくる人、起業する人、訪れる人。このまちを舞台に誰もが主人公になれる、そんな2日間を目指しました。前回までは七番街区の工事が進行中だったため、その様子を横目に見ながらの開催でしたが、今回は6月に晴れてオープンとなった「オリマチNishiki」の敷地内にも会場を広げ、路地や広場、喫茶七番、2階のスペース七番の中も会場に。来場者数は2日間でおよそ千五百人。まちに新たな賑わいをつくり出すことができました。さらに、各店舗での会計をデジタル商品券「みちにわpay」でのみ決済可能とし、イベント内でのキャッシュレス化を目指す実証実験にもチャレンジ！

普段はたくさんの車が行き交う車道空間いっぱいに芝生が敷き詰められ、子どもたちのでんぐり返しや訪れた人々が思い思いにくつろぐ姿など、まちじゅうに楽しいおしゃべりと笑顔の溢れる2日間となりました。これからもより多くのみなさんに愛され、このまちを象徴するイベントとなるよう頑張っていきます。どうぞ応援のほどよろしくお願いします！

コミュニティマネージャー育成講座 CCCCに協力しました！

大ナゴヤ大学が今年からスタートした、コミュニティマネージャー育成講座CCCCを錦二丁目地区で開催しました。この講座は、まちづくりはもちろんのこと、ビジネスの共創や展開でもいま大事にされている「コミュニティ」をどう作り、育んでいくのか、さまざまな実践者の方から学び、それを試行していくプログラムです。

前半は6回に渡り、追手門学院大学准教授の上林さん、リビルディングセンタージャパンの東野さん、UMA/design farm代表の原田さんといった豪華講師陣と錦二丁目でも活躍するスタッフとで講義を行い、後半では合計12月名の受講者が3つのチームに分かれ、食、廃材、これからつくる、の3つのテーマをもとに、チームで議論をしながら、喫茶七番やスペース七番でさまざまなプログラムを展開いただきました。広場での絵本の読み聞かせイベントと一緒に、廃材チームは錦二丁目に眠っていた布から子ども用の絵本バックを、食チームは錦二丁目にあるお育てたさつまいもから鬼まんじゅうをWS参加者とともに作り、参加者に振舞いました。いろんなスキルや興味のある方と議論しながら実際に何かやってみる、というプロセスを通じて、コミュニティの作り方や育て方を実践いただく場にもなりました。

CCCCは12月の報告会を最後に、第一期が終わりました。次回はあるのか、また錦二丁目地区で行うのか別の地域で行うのか未定ですが、引き続き地域として、様々なかたちでコミュニティに興味のある方を応援していきます。

Damonde
meal chiffon & sweets
Cuisine française traditionnelle

グルテンフリー専門店
シフォンケーキが自慢のお店
お客様のライフスタイルにあわせて
食事系ミールシフォンとスイーツ系
シフォンケーキをお愉しみいただけます。

毎日の食事やティータイムに Damonde を是非ご利用ください。
※クッキー・ケーク他　贈答焼き菓子も取り揃えております。

Damonde（ダモンデ）ミールシフォン＆スイーツ
〒460-0003 名古屋市中区錦 2 丁目 11-27 TH 錦ビル 1F　OPEN　MON-SAT 11:00-18:00(L.O 17:30)
TEL 052-211-9333　CLOSE　SUN

スマホで注文、支払、決めた時間に受け取れる便利なアプリはこちら
iOS　android
460-0003 愛知県名古屋市中区錦 2 丁目 7-7 オリマチ錦 104 tel 052-218-3550

二丁目の夕日 No.06

文・挿絵　ぎやらり亜中天　服部 清人

「ホームにて」

三月の下旬のこと。在来線の駅のホームで出くわしたエピソードをひとつ。

中学を卒業したばかりのどこか幼さを残した、それでいて体格だけはビッグな男の子。詰襟の制服のボタンもはち切れそうで、肩から大きなバッグを下げている。右手にはマンガ、左手には紙袋。弁当が入っているらしい。

「新幹線に乗ってから食べるんだよ」すでに涙声の母親から手渡されていた。どうもビッグ君、相撲部屋に入門するために上京するところらしい。そういえば二三日前の新聞の地方版で、〝○○商店街の星〟なんて調子で紹介されていた顔写真がこのビッグ君だった。

「辛くなったら帰ってこい」と後ろから声をかけたのはおばあちゃんだろう。

「ダメよそんなこと言ったら、せっかくの決心が鈍るじゃない」妹とおぼしき少女がたしなめる。見るとホームの少し離れたところに父親らしき男があらぬ方向を見やりながらもじもじしている。

「お父さん、何してるの、そんなところで。電車来ましたよ」その声にせかされて、その父親もやっと近づいてきた。到着した電車にそそくさと乗り込んだビッグ君の前の席に腰をおろした私は彼の様子を正面からのぞき込むことができた。車窓のむこうで母親が開けて、と合図する。ビッグ君は照れ臭いのか面倒くさそうに少しだけ窓を開け、すぐにマンガを読み出した。しかし、ページは一向に進まない。出発までのわずかな待ち時間がゆっくりと流れていく。切符はちゃんと持っているか。着いたら電話しなさい。親方や先輩にちゃんと挨拶するのよ、と昨晩から何度も口にしただろう言葉を母親がまた繰り返す。その度にビッグ君はマンガに目を落としながら、背中を丸めて頷いていた。

やがて発車を告げるベルが鳴った。母親とおばあちゃんがかわるがわる車窓の隙間からビッグ君の肩に手を伸ばす。

「お父さん、はやくはやく、行っちゃうよ」妹の声にせかされ、父親がやっと窓際までやってきた。少しずつ電車は動き出す。その速度に合わせて涙目の家族もみんな走り出した。ビッグ君も初めて顔を上げて手を振る。その時、それまで黙っていた父親が電車の乗客全員に聞こえるような大声で叫んだ。

「マケルナ、マサオ！」

ずっと我慢していたビッグ君の小さな目から堰をきったように大粒の涙がこぼれた。周りの乗客の何人かが思わず拍手を送った。ビッグ君の活躍とその家族の幸せを心から祈る気持ちからだった。

家族の数だけドラマがあり、人が人を思う情がある。

東京から錦二丁目育ちの女子大生より

「まちの山車」そよ風のお手紙 2

ご無沙汰しております。まゆです。お元気にされていましたか？先回のお手紙を書いた頃から季節は移り、秋の香りがするようになりました。ふと見上げた葉っぱも紅く染まり始めていますね。

今日は私がまちに興味を持つきっかけとなったお祭りについてお話ししましょう。幼い頃、秋になると長者町五区お祭りが開催されて、まちじゅうを山車が巡りました。この山車は2010年のあいちトリエンナーレの作品のひとつでした。その作品をまちの山車にしたそうです。山車を保管する建物、場所が次々となくなり、現在は私の実家である寺院で保管管理しています。その為、幼い時からとても身近な存在でした。アーティストさんやまちの人が境内に集まって組み立て、山車に悪戯されないように見守り隊をしたことも懐かしく、弟と一緒に曳かせてもらったのも楽しい思い出です。山車は、細い竹の棒を數いて水をかけた上に車輪部分をのせて、力を合わせて押しながら曳くと見事に回転し、細い道も曲がり通り抜けるのです。「そーれいい」という掛け声がまちじゅうに響き渡り、その声を聞くと「ああ、錦にも秋が来た」と思うことができました。

コロナ禍に入り、ここ数年お祭りは中止が続いています。山車は

今、我が家の倉庫で眠っています。私一人が山車を組み立てても意味がありません。組み立てたいという人や山車を曳く人、多くの方の心が必要です。そして、山車の通る道を作ることも重要です。当時は、東京や三重県など愛知県以外からも山車を曳くためだけにいらっしゃる方もいました。「今年もこのために帰ってきたよ！」という声が嬉しかったと母も話します。お祭りを通して、幼かった私には同世代の友達もできました。私はよく、「お祭りは『非日常』ですが、そこで築かれた縁は『日常』となります」と話します。山車を組み立て、曳くみなさんの様子を目の前で見て、幼い私が実感したことです。山車には人を繋ぐ不思議な力があります。この手紙を読んだ方々とこのまちの山車が出会う日が来ることを願います。次回は「ご縁」についてお話しできたらと思います。今回も私の手紙を読んでくださりありがとうございました。

黒部真由

Bon appetite !

食べて旅する Vol.3 瓦そば PIN

瓦ソバは山口県下関の郷土料理。名古屋では珍しいですよね。市内には他にないかもしれません。下関は私の生まれ故郷なんですよ。25 年前に名古屋に来て、一緒に働いていた仲間と独立して飲食店を経営する会社を作ることになり、当時ちょっとした蕎麦ブームだったこともあって、せっかくなら自分にとって馴染みのある瓦ソバを出すお店をやりたいなと思って始めたのが最初です。おかげさまで昨年 20 周年を迎えました。初めの頃は瓦ソバをメインにお酒とおつまみを何品か、という感じでしたが、山口の名物や郷土料理、お酒などを少しづつ増やしていきました。もちろん下関名物のふぐも。港町ですからやっぱり海のものが多いですが長州鶏もおすすめです。

瓦ソバは私にとっては子どもの頃から食べていた親しみのある味。転勤や出張で山口県から来られる方もけっこういらっしゃって「名古屋で瓦ソバが食べられるの？」って驚かれることも多いですね。もともとは西南戦争の時に屋外で肉や魚を焼いて食べるのに瓦を鉄板代わりに使ったのが発祥だそうで、蕎麦を焼いて出したのは下関で有名な「たかせ」さんというお店が元祖。田舎にあるのにすごい人気店で、観光客や地元の人たちでいつも行列ができるんですよ。

店長　植野美香さん

名古屋市中区錦二丁目9-9
tel 052-222-7600
営業時間　月～土
・ランチ 11:30～14:00(L.O13:30)
・夜 17:30～22:30(L.O 21:30)
日・祝休

名古屋に来たばかりの頃、下関とは違ってすごく都会だなと思いました。道路も広くて高いビルもいっぱい。日本の真ん中なので西にも東にも行きやすく、旅をするのに便利だなとワクワクしたのを覚えています。金沢、長野、京都、東京…お店のスタッフみんなでいろいろ旅行に行きました。女性スタッフが多いので旅先ではやっぱり美味しいものを食べるのが楽しくて。その後、それぞれ結婚したり子どもができたりで、みんな揃っての旅行はしばらくできていないですね。できればまた行きたいなあ。下関には一昨年、久しぶりに帰省しました。あちらも昔に比べると開発が進んでずいぶん様子が変わりました。それでも海も山も近く自然が豊か。やっぱり私は今でも下関が大好きです。